

日本で今一番売っている人物 天皇

ご学友から見た天皇陛下

ジャーナリスト 橋本 明 氏



橋本氏は昭和8年生まれで、神奈川県横浜市出身。昭和15年学習院初等科入学時から昭和31年同大学卒業まで天皇陛下と机を並べて学んだご学友である。昭和31年に共同通信社入

社。社会部、海外部などを経て外信部に移り、ジュネーブ支局長、ロスアンゼルス支局長などを歴任。建築家丹下健三、佐藤栄作首相、サマランチ IOC会長、サッチャー元英国首相、オットー・フォン・ハプスブルグ大公など内外の多彩な人々と交流を持つ。5月19日の総会後の講演でも、天皇陛下への篤い尊崇の念が感じられた。講演内容の概要を纏めるのは簡単ではないが、要約してお伝えする。

(編集部)

天皇陛下の原点—平和主義

天皇は戦争中日光に疎開されており、昭和20年8月15日の終戦から3ヶ月近くたった11月7日に列車で原宿駅に到着された。この時、車中から見た東京の焼け野原の状況をご覧になられて、戦争の無益さと平和への思いを強く持つようになられた。私は外国人から日本はどんな国かと聞かれたとき、「日本人は敗戦で戦争が悪であると知った。その後、誇るべき平和憲法を持ち、長く戦争をしないで過ごした国である。天皇平和を愛するリベラリストの砦である」と話してきた。

新しい旅のかたち



インスブルック市観光局・ザルツブルク市観光局
日本事務所代表 モラス 彩子

私は35年以上にわたり、オーストリア政府観光局で広報作業をして参りました。しかし何年やっても、様々なテーマを提供しても、日本人の平均宿泊数は延べ2泊でした。どうにかもっと伸ばすことができないかと思っていた矢先に(株)ワールド航空サービスの、長期滞在の旅、「ワールドサマービレッジ」の企画と出会いました。これはオーストリアの地方都市、インスブルックという美しい土地での長期滞在の企画でした。日本で発案、ヨーロッパで肉付けされた本格的な、そして画期的な企画でした。

初めは誰も日本人がインスブルックに2週間も滞在す

しかし今この平和憲法を改正しようという動きが出てきている。天皇は心を痛めておられるのではないか。天皇は、父昭和天皇の事跡を勉強され、終戦へのご聖断、自らの権力を剥奪する平和憲法の受け入れ、戦後の全国巡業による国民との対話など父天皇の平和への思いを、継承する決意を固められたのである。

平和憲法成立秘話

終戦後6ヶ月足らずの1946年2月1日、毎日新聞が、松本国務大臣の日本憲法私案をスクープした。天皇の政治的立場の考え方方が、戦前と変わらない内容に驚いたマッカーサーは直ちに配下のホイットニー民政局長に、①天皇は国のヘッドである②戦争は放棄して軍備はしない③貴族制度など封建制度の廃止の3項目、いわゆるマッカーサーメモに基づいて至急民主的な憲法の原案を作成するよう指示した。背景にはソ連、中国など戦勝国に、松本私案では受け入れられず、「戦争裁判」の裁判長であったオーストラリアのウェブが主張するように、天皇が訴追され、アメリカの占領政策に干渉されるのを恐れたのである。マッカーサーは天皇が戦争責任は自分にあるという潔い態度と、日本国民の天皇に対する崇拜の念を考慮して天皇制を存続させたいと考えた。2月13日に松本憲法担当国務大臣と吉田外務大臣との会談でホイットニーチームが作成した素案が示され、その後、日本の各政党、各団体の意見を取り入れて新しい日本憲法が成立したのである。

平和憲法を愛するところ

昭和天皇が積極的に受け入れた平和憲法を維持し、70年間平和を守り続けた国を愛し、国民を愛する事が天皇陛下のお心である。

こんな平和を希求する天皇こそ、今一番世界に売り込んでいい人物ではなかろうか。

るなんて信じておらず、現地の観光局でさえ半信半疑、来てくれれば嬉しい位の気持ちだったので。

しかしこの企画が大当たりして、最高一か月も、お客様がインスブルックに滞在されたのです。そして、インスブルックを起点に、近隣諸国に小旅行をするという全く新しい旅の提案が生まれました。これこそ地続きのヨーロッパならではの醍醐味です。このアイディアはツアーが催されたチロル州の州都—インスブルック市においても大変な話題となりました。「これこそ日本人の新しい旅の形だ」とセンセーションに受け取られたのです。ヨーロッパの燐し銀のような古都インスブルック市を避暑地ととらえ、そこで日々を過ごそうとする画期的な、贅沢な、今まで誰も考えたことがない旅だったのです。

(JN紙 102号につづく)

新しいまちづくり「都市観光」①

JR東海 相談役 須田 寛

「都市(まち)観光」とは、都市(まち)そのもののもつ特色、美、そこに集積された独自の文化・景観やくらしのいとなみにふれるとともに観光客と市民との交流を通じてまちづくりの原点、都市の文化にふれる観光をいう。

今なぜ「都市観光」か

日本の人口は減少局面に入った。定住人口が首都圏・近畿圏内等の大都市圏に集中する一方、地方の過疎化現象が進む等、社会・経済の地域格差拡大が進みつつある。このため地域経済、地域社会の再活性化が国の政策課題となってきた。行政面での都市即ち「市」は現在約800を数える。人口5万人(かつては3万人)以上のまちを「市」として地方行政は行われてきた。地方の過疎化現象は地方都市も直撃。最小人口の「市」はわずか定住人口4000人にすぎず「市」とは名ばかりになっているところも多い。一方人口70万人以上を要件とする政令指定(大)都市は現在18都市に及んでいる。「観光」は交流人口(そのまちを訪れる人と定住する人の数をあわせたもの)を増やす効果をもつ。交流人口が増えれば地域社会—まちを活性化することができる。

又「観光」は経済効果を伴なう即ち宿泊、食事、買物などの観光客から観光地の観光産業は収益を得ることができる。これが増えれば地域の経済は再活性化される。そこで都市ひいては地域、社会、地域経済を観光によって(再)活性化することによって地域では新しいまちづ

COLUMN

古代マヤ暦の驚愕する予言



メキシコ・ユカタン半島のマヤ文明遺跡にチチエン・イツツアと呼ばれ、マヤ天文学の聖地とも考えられている「世界遺産」がある。その中心、「ククルカンの神殿」には、古代マヤ人の天文学の智恵が凝縮され、計算し尽されて精巧に設計された驚くべきカラクリが隠されている。ピラミッドの四面それぞれに91段の階段があり、最上段には四角い神殿が鎮座して、その内部にはもう1段積まれて階段はすべて合せて365段となり、それは奇しくも1年の時を表している。正面の階段の両脇にはそれぞれ9段からなる階層があり、これらが合わさってマヤ暦の1年18カ月を表している。その最大の見せ場は、春分と秋分の日没時に正面の手すりを伝わって、蛇のシルエットが下りてくる幻想的な現象である。1年に2度もマヤ暦に従いまやの最高神ククルカン様が降臨なされるのである。マヤ暦の極致は、天文学を駆使した精緻な現象に見られる。その寸分も違わない正確さは、1年18カ月・365.2420日のマヤ暦に比べ、現代暦は1年12カ月・365.2422日であり、その誤

くりが進みまちの文化的、経済価値を維持向上させることができる。このような観光の持つ文化経済効果がもっとよく発揮されるのは一定の社会的集積がすでにあるまち—都市に多くの人々を迎える「都市観光」がもともと効果的だと考えられる。

新しいまちづくりの動機となりその推進が可能となる「都市観光」が国の直面する経済社会問題を解決する最適の手段と考えられるので、以下地域文化を創成展させるという視点に立ってその方向を考えてみたいと思う。

都市観光での都市とは

「都市観光」対象の「都市」(市、まち)は次のようなものを考える。

①集落のなかで定住人口が相対的に多く、人口密度(面積当たり人口)も高く、一次産業(農漁業)に比し二、三次産業(生産加工流通交通など)従事者の多いところ。

②経済、社会、文化活動を果たす機能が多く、立地、集積しているところを「都市観光」での「都市」と考える。従って「市」という名称にこだわらず①②の要件を満たせば「都市観光」の対象となる。又、近(隣)接の市・町と一体となっている場合は行政区画をこえて、それをひとつの観光面での都市(圏)と考えてもよい。又合併によって広大な面積の都市となったところで市内に旧市の中心がいくつか散在している多核都市の場合その一部を、別々の「都市観光」の対象として捉えることもできよう。因みに国ではこのような都市の実態を考えて定住人口5000人以上、人口密度4000人/km²以上の地域を「人口集中地区」として統計上で区分することになった。この「地区」も「都市観光」上の「都市」を考える場合、ひとつの基準ともいえる。

差は僅か2/10,000。暦がいかに正確であるかが想像できよう。

マヤ暦によると現代は第5太陽期にあり、それは紀元前3113年に始り、終末はその5125年後とされている。つまりわれわれが生きている現代は、5125-3113=2015の計算式により、西暦2012年に終末期を迎えると予言された。科学誌などでも、2012年12月21日が地球滅亡の日と伝えられ、話が拡散され、その直前には一部で恐怖と絶望感を生んだ。固唾を呑んだその日、地球は滅びず、大きな混乱もなかった。あれほど正確と伝えられたマヤ暦でさえ神通力を失ったとマヤ不信説も流れた。だが、マヤ暦が間違う筈ないと信じるマヤ暦研究家が精査し上手の手から水が漏れていることに気づいた。何と5千年分の閏年を見逃した単純なミスだったと発表したのだ。計算し直した末に、彼らが改めて「地球破滅・人類滅亡の日」として発表したのは、今から僅か3カ月先の「2015年9月3日」である。来る9月3日に地球は滅びる。さあ、あなたならどうする?死出の旅路への覚悟はできているか?身辺整理は間に合うか?あなたもマヤ最高神が予言する運命の岐路に立たされているのです。

エッセイスト 近藤 節夫